

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしようなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりなき緊張感

2026(令和8)年2月15日／第114号

自然災害に強いまちづくりをめざしましょう！

スマッシュはよろのシルバー

火山の噴火（降灰の影響）について学ぼう

火山現象の中で噴石や火碎流の恐ろしさは広く知られていますが、火山灰も大きな二次・三次といった被害を生みだすといわれています。火山灰は噴火した火山から遠く離れた地域にまで広がり、交通障害や停電を引き起こしたり、農業や商工業に影響を与えたり、健康被害を招いたりすることがあります。

今回、政府のオンライン広報サイトに投稿された気象庁による「火山災害とその対策」を参考に、一部抜粋してお知らせします。



上記は現在の日本の火山(赤い△は活火山)です。東日本と九州に集中しており、首都圏では富士山、箱根山、浅間山、日光白根山が噴火の影響を受ける可能性が高い山です。噴火で非常に厄介なのが「降灰」です。

火山噴火・降灰により私たちの生活に与える負の影響

①交通機関障害「ほぼ全て停止」

視界不良、道路や鉄路上の降灰、航空機や自動車のエンジンに灰が入ることで、ほぼ全ての交通機関が停止し、その期間もこれまでに経験ないほど長期に及ぶ可能性があります。

②ライフラインの供給障害・停止

火山灰の重みで電線が切れたり、雨を含み漏電を起こして送電設備が故障したりして停電が発生します。その停電で動力源も動かず、浄水や配水など水道施設への降灰で水流障害が確実に発生します。浄水場の降灰でろ過機能が低下して上水供給が停止、それが長期に及ぶことで飲み水が市中からいずれはほぼ無くなってしまいます（無論、外部からの供給もほぼ期待できません）。

③生産物への影響も甚大です

降灰で農産物への打撃は甚大になります。ハウス栽培も灰の重みでハウスが壊れます。②の停電で温度管理もできません。

一般の商品(特に食料品)も灰が混じることで、商品価値を失い、商売が成り立たない状況におちいります。

④自然への影響や人体への影響

周囲の自然が破壊されます。また、灰を吸い込むことでの呼吸器官への負の影響も大きくなります。現状でも医師や看護師不足が騒がれていますが、災害発生時はそれが極端になり、適切な治療を受けられず、通常で助かる症状でも、「死」を覚悟しなければならなくなります。

⑤家が壊れる、逃げ場を失う

降灰が屋根や屋上に堆積し、そこに雨が降ることで重量が増し、家屋が倒壊する危険性が高まります。およそ、30cmの降灰が屋根の上に積もることで、10軒中3件(30%)が屋根に損壊を与え、住まいとして機能にくくなると推計されています。

現状、柏市の災害時の戸建て住民の自宅以外への避難規模がおよそ全体の20%と推定した避難者数が算定されています。柏市はこの2割の数でも屋内避難所受入れは難しいのが実状で、その抜本的な解決策も10年以上ありません。よって避難所を求める人々で市内があふれるとの最悪のシナリオが観えてきます。

⑥いずれ飢餓が襲ってきます

上記の①～⑤が複合することで、非常に高い確率で柏市から飲料水や食料が枯渇する事態が想定されます。

これを防ぐためには、官民合わせての日頃の備蓄をどうするか？を考える必要があります。

私ども風早北部地域ふるさと協議会では、去る12月22日に太田市長宛て提出した防災関係の住民要望書の中で、本件につき市防災行政が時宜を逸せず、真摯に検討するよう強く求めました。

降灰情報を前にした、その前後の基本的な対応

【噴火前】	【噴火直後】	【噴火後】
テレビの天気予報などでその日の降灰範囲を確認	ラジオや気象庁ウェブサイトなどで小さな噴石の落下範囲を知る	気象庁ウェブサイトなどで6時間先までの降灰量を確認



降灰に備え、窓を閉め、外出時は傘やマスクを用意する 	速やかに頑丈な建物の中に退避 	やや多量の降灰が予想されるため、なるべく外出を控える。どうしても外出する時は傘やマスクを用いる。 
---	--	---

階級	降灰の厚さ	路面や視界のイメージ	とるべき行動の例
多量	1mm以上	路面が完全に火山灰で覆われ、視界不良となる 	外出を控える 運転を控える
やや多量	0.1mmから1mm	火山灰が降っているのが明らかに分かり、道路の白線は見えにくくなる 鹿児島市提供 	マスクなどで防御する 徐行運転する
少量	0.1mm未満	火山灰が降っているのがようやく分かり、うっすら積もる程度 	窓を閉める 自動車のフロントガラスなどから灰を取り除く

←降灰の程度別具体的行動例

気象庁配信の
降灰予報のリーフレット（2種類）は
コチラからQRコードで閲覧可能です。
又は、「気象庁 降灰予報リーフレット」
で検索してください。
また東京都発信「降灰に備える」も次頁以降
に添付します。



次回第115号は3月10日付で配信します

防災ネットしょうなん 第114号